

国際競争力強化に向けた 日本通運の取り組み



2015年6月10日

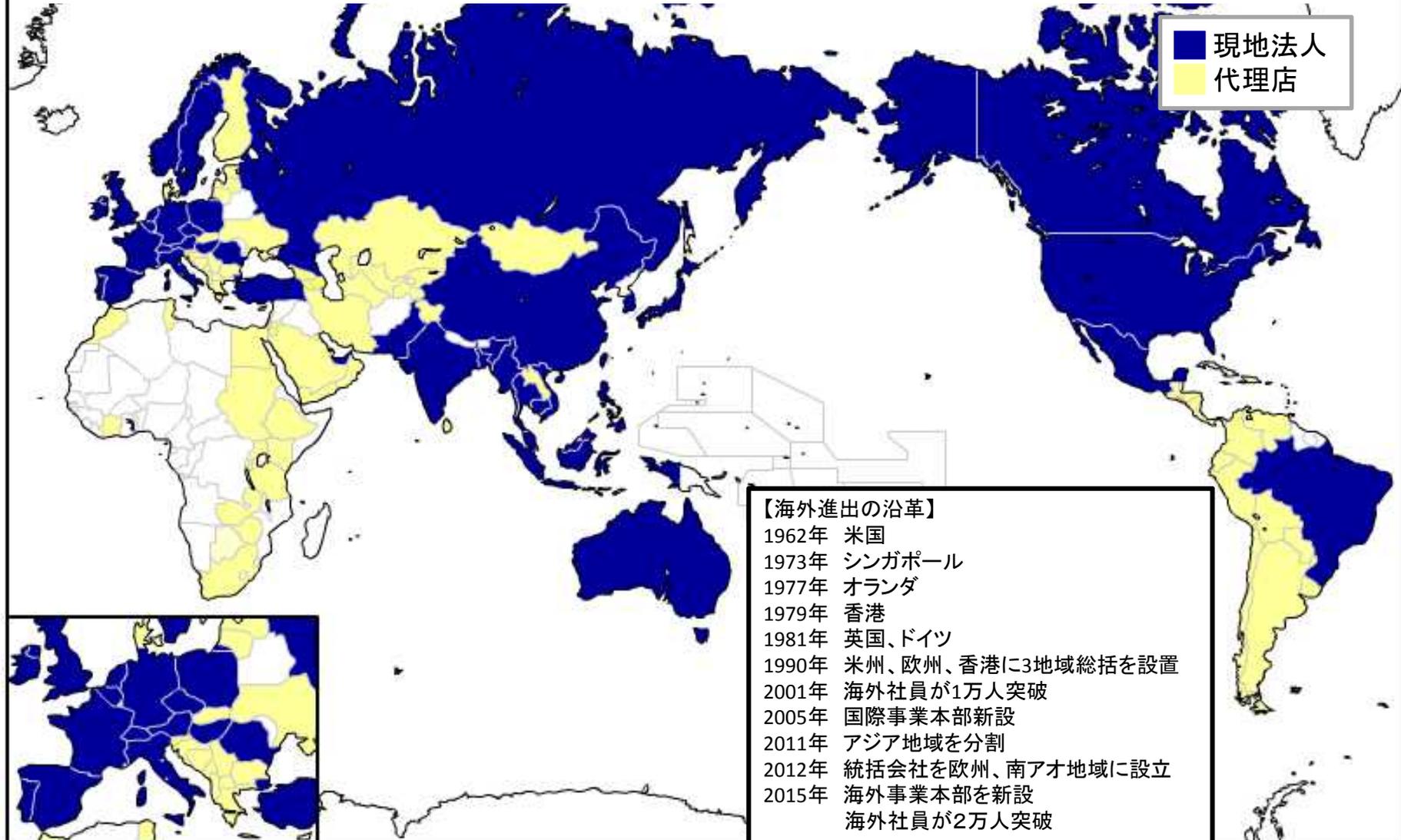
1. これまでの海外事業展開

— 日系企業の海外事業とともに —

	日系企業の動き	求められる物流	日通の事業展開
～1970年代	日本から欧米への輸出 (代理店、販社の設置)	・日本発国際輸送	代理店設置、駐在員派遣
～1980年代半ば	欧米に販売会社を設立	・欧米での在庫管理、配送	現地法人設立
1980年代半ば～	海外生産(欧米)が始まる	・調達物流	海外ロジスティクス機能強化
1990年代半ば～	東アジア(中国)へ生産拠点が 移る	・東アジア発国際輸送 (欧米日本向け) ・調達物流	中国拠点展開拡大 調達物流のノウハウを移植
2000年代～	生産拠点がアセアンに広がる	・アセアン発国際輸送 (欧米日本向け) ・調達物流	アセアン進出加速 域内物流網の構築
現在	東アジア(中国)、アセアンでの販売拡大 (消費財、素材、流通等の海外進出)	・東アジア、アセアンにおける 地産地消物流	日本の産業別ノウハウを 移植

1. これまでの海外事業展開

41カ国、240都市、514拠点、20,018人 (2015年3月末時点)



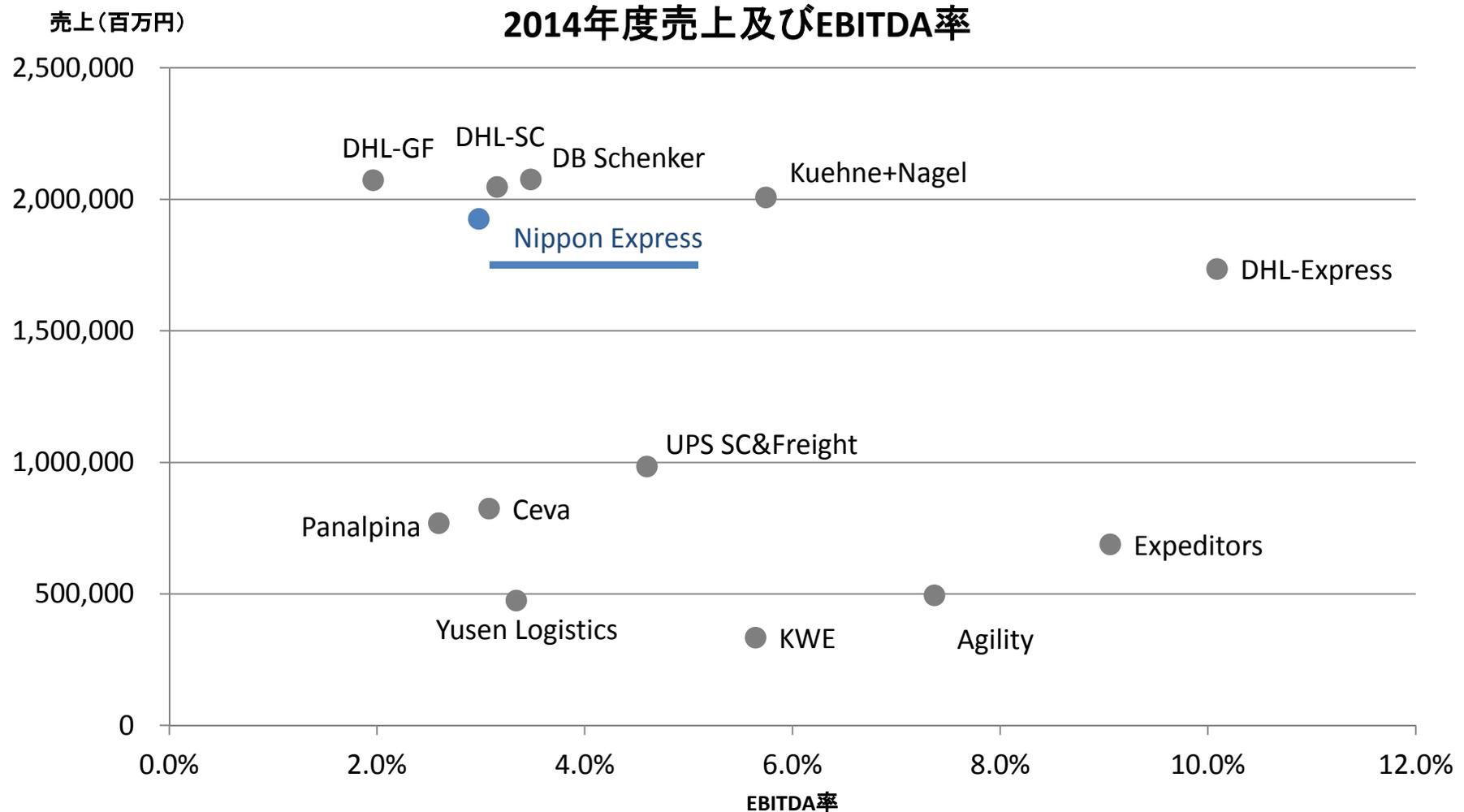
1. これまでの海外事業展開 ー近年の主な傾向ー

1. アジアが生産地としてのみならず、消費地としても主戦場となる。

2. グローバルで活躍する日系企業の産業・業種が多様化している。
(自動車、電機・電子に加え、消費財、素材、流通等の海外進出)

3. 新たな流通チャネル(E-commerce等)、高付加価値サービス(コールドチェーン等)の需要が拡大している。

2. 当社の海外事業のポジショニング



*DHLはEBITDAではなくEBIT。UPSとExpeditorsはOperating Income。

*Nippon Expressは連結数値。

*Nippon Express,KWE及びYusen LogisticsのEBITDAは当社算出(EBITDA=営業利益+原価償却費)
(為替レート/Exchange rates)

**USD=JPY104.85 **EUR=JPY138.92 **CHF=JPY114.72 **KWD=JPY364.34

(換算率:三菱UFJリサーチ&コンサルティング発表の2014年平均TTBレートを適用)

Copyright©2015. NIPPON EXPRESS.CO.,LTD All rights reserved.

国際競争力の強化に向けて

アジアを主戦場とした事業拡大

- ・クロスボーダートラック輸送、鉄道、RORO船等
新たな輸送モードの開発
- ・日本で培った産業別ノウハウを移植
- ・ハラル物流、コールドチェーン等の
高付加価値輸送サービス開発
- ・フォワーディング事業のさらなる拡大に
必要な機能をグローバルに再整備、拡充
(購買機能等)
- ・日本発生鮮品輸出の取組み強化

非日系企業への取組強化

- ・ナショナルスタッフの営業戦力の拡充
- ・グローバルアカウントの営業管理の徹底
- ・産業軸で機能補完を狙うM&A
(高級アパレル等)
- ・日系物流企業の高品質サービスを提供

4. アジアの物流における課題

1. 輸出入申告、港湾諸手続きの電子化、簡素化、合理化

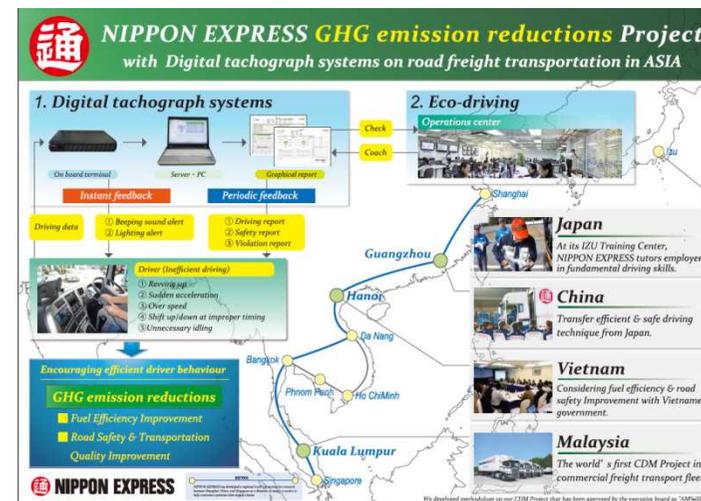
2. 保税手続きを含む通関制度の整備と統一

3. 車両の相互通行等道路・交通インフラの整備

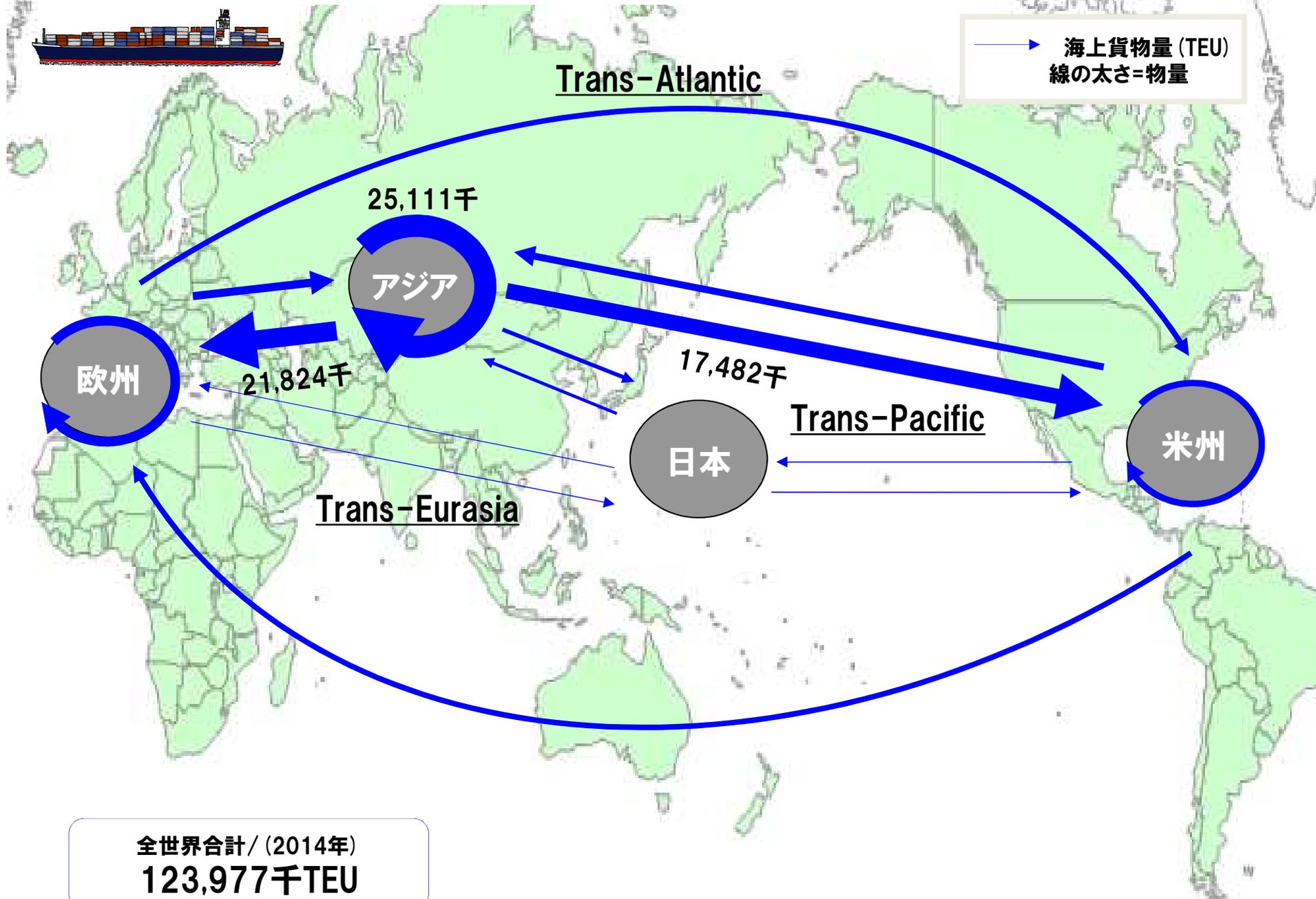
4. 海外進出に伴う外資規制の緩和

5. テロ・保安対策の推進

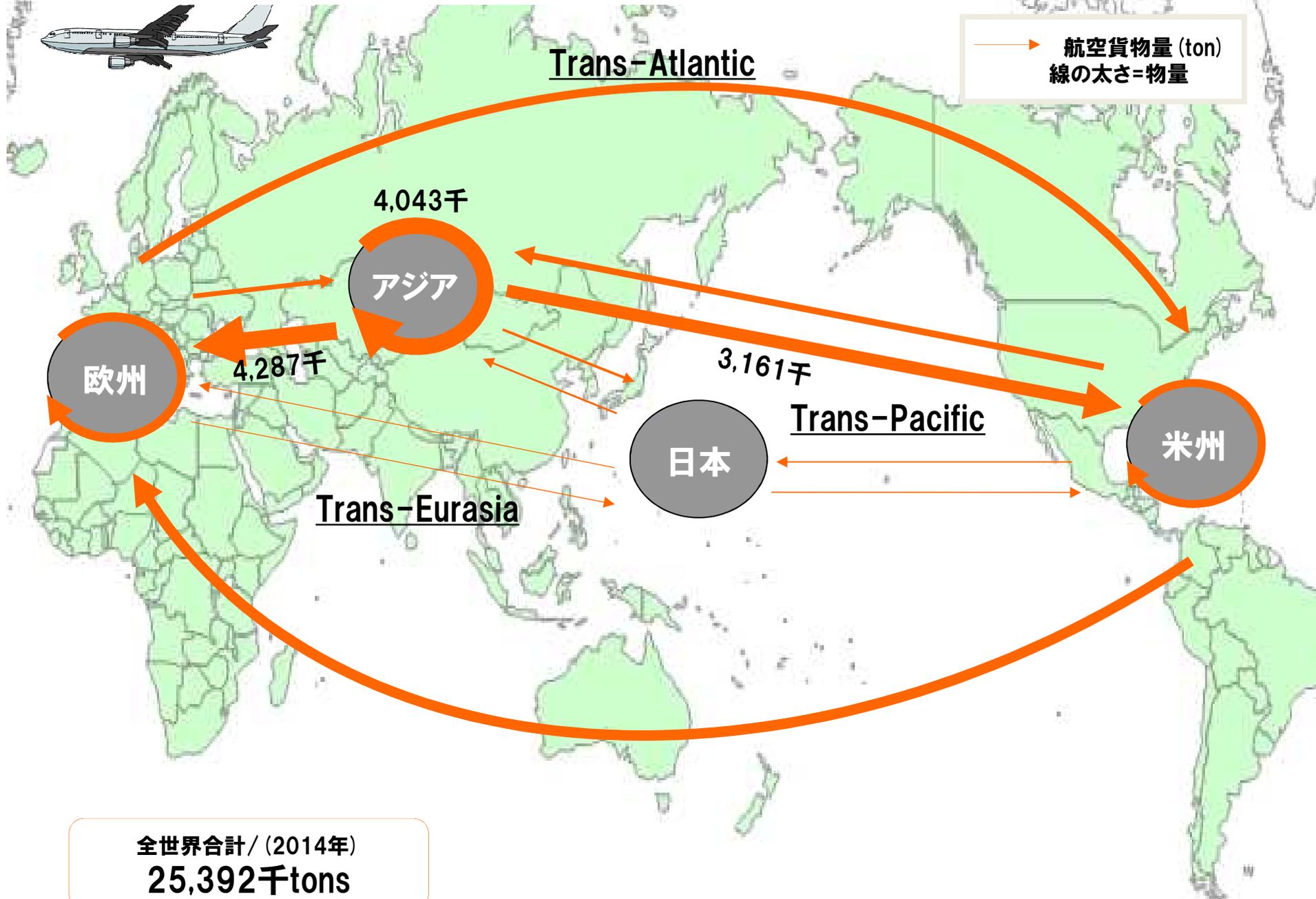
6. 人材育成



(資料)フォワーディングマーケット(海運) 2014年



(資料)フォワーディングマーケット(航空) 2014年



全世界合計 / (2014年)
25,392千tons

ご清聴ありがとうございました。

